

ようこそ畑へ

2011年5月11日(水)

ファーム伊達家・旬の野菜セットに、お申し込みをいただきありがとうございます。

野菜のお届けは6月下旬からですが、今の畑の様子などをお知らせするため、ファーム伊達家からのおたより「ようこそ畑へ」(VOL. 1)をお届けします。

今年の豊滝は雪が少なく、例年より早く畑の雪がなくなりました。雪が溶けると、畑ではふきのとうが採れるので、味噌汁にしていただきました。また、あさつきが芽を出すので、かき揚げやうどんの薬味、味噌汁でいただいています。よもぎの天ぷらも春の楽しみの一つです。

畑の水路には、カエルとサンショウウオの卵が産みつけられていて、子供たちは畑に来るとまず卵を見に行きます。先週末にはオタマジャクシがかえり始めました。まだ、体長5ミリぐらいの小さなオタマジャクシがどんな成長を遂げて行くのか、毎日観察していると思っています。

4月は、こうして春の恵みや命を楽しみながら、ビニールハウスの中での種まき作業のほか、畑の中を流れる水路の泥さらいや畑の排水溝掘り、来冬に向けての薪割りなどの作業をしていました。雨が多く、畑おこしはようやく5月6日から始めました。

ハウスの中では、トマト、ナス、ピーマンのほか、水菜、チンゲンサイ、春菊、タアサイなどの葉ものの野菜が芽を出しています。これからきゅうりやかぼちゃ、ズッキーニの種まきもします。5月15日を過ぎたころから畑に苗を植える作業が始まり、6月中旬ぐらいまで、種まき、苗の定植などで作業があり、



ひと段落したころ野菜の配達が始まります。

先日、東日本大震災の影響で稻の作付けができるない農家の方がテレビで映し出されました。その方は、「50年農家をやってきて、田植えができないのはつらい。」とおっしゃっていました。ファーム伊達家はまだ7年目のシーズンに入ったばかりで、その方の50年の想いというのは、僕の想像以上のものだと思います。



原発事故の影響も気がかりです。考えると、いろいろと不安なことは出てきますが、未来は決して不安なことばかりではないと思うのです。

豊滝で野菜を作ってきた6年間、毎年、いろいろな失敗と工夫を積み重ねてきましたが、まだまだ改善の余地はたくさんあって、きっと、一生かかっても「これで満足。」というのではないかもしれません。でも、毎年、自然の営みと野菜の姿に学びながら、よりおいしい野菜をお届けできるよう工夫を積み重ねていける未来があることは、とてもありがたく、楽しいことだと思います。

10年後、20年後の野菜と自分を楽しみにしつつ、しっかりと足元を見つめて、皆さんと自然の恵みをいただきながら、地道に日々を積み重ねていきたいと思います。

今シーズン、どうぞよろしくお願ひします。